

勤労者医療と地域医療の中核病院として、患者中心の安全で安心な質の高い医療を提供します。

診療科の紹介

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科副部長	こ だに ひろ 子	平成10年 鳥取大学卒 平成14年 鳥取大学院卒 医学博士 日本耳鼻咽喉科学会専門医
----------	-----------	--

耳鼻咽喉科副部長	さか べ あき こ	平成13年 産業医科大学卒 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本医師会認定産業医
----------	-----------	---

耳鼻咽喉科医師	えの もと ゆみ こ	平成17年 北里大学卒 平成20年 鳥取大学耳鼻咽喉科入局
---------	------------	----------------------------------

耳鼻咽喉科診察日

月～金曜日

※月曜日は手術日のため
午前10時で受付を終了
させていただきます

耳鼻咽喉科は平成19年4月から坂部副部長1名体制で診療を続けてきましたが、平成22年4月に小谷副部長、6月に榎本医師が採用となり医師3人体制となりました。



小谷 宏子副部長

坂部副部長一人体制時は、近隣の先生方のご要望に十分お応えできない部分もありましたが、今後は手術、入院治療も充実させ、病院ならではの耳鼻咽喉科診療を行っていきたくて考えております。地域の診療所の先生方との病診連携を密にし、先生方のご期待に添えるよう努力してまいります。患者さんをご紹介いただいた際には、当院での精密検査の後、経過に応じて紹介元にお戻りいただき、ともに診療させていただければ幸いに存じます。

専門外来

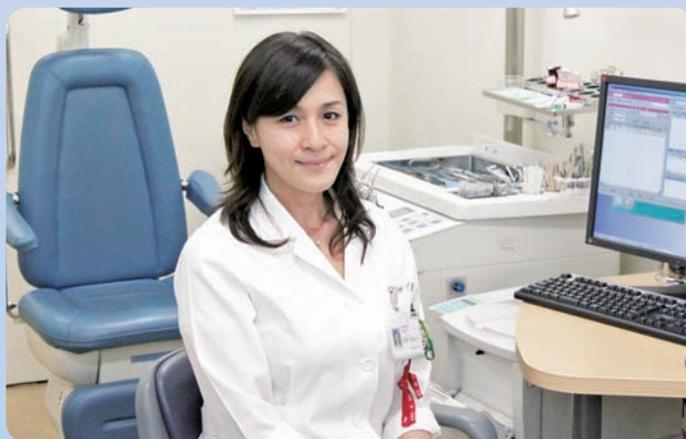
睡眠時無呼吸外来 ▶ 毎週火曜日 16時～

補聴器外来 ▶ 毎週木曜日 14時～

睡眠時無呼吸外来

睡眠時無呼吸症候群でC-PAP（経鼻的持続陽圧呼吸療法）を行っている患者さんは、月1回の通院を長期にわたって必要としますが、勤労者の方々にとって午前中の受診は困難であることが多いため当院では夕方に専門外来を設けております。

また、睡眠時無呼吸症候群の検査は自宅でできる簡易検査のほかに、1泊入院による終夜睡眠ポリグラフィー検査を行っています。仕事をされている方は仕事が終わってからの入院、翌朝退院後に病院から出勤されることも可能です。勤労者のニーズに合わせた検査入院を行っています。



坂部 亜希子副部長

補聴器外来

まず一般外来を受診していただき耳の疾病の有無を診断します。

新聞広告やテレビショッピングを見て、自己判断で合わない補聴器を使うとかえって難聴が進行してしまうことがあります。まずは現状の聴力の評価をしてから、補聴器使用の是非を判断します。御家族から言われるまま、なんとなく使った結果、難聴が進んでしまうような患者さんが少なくなるように、補聴器メーカーと連携して、フィッティングをしていきます。高額な器機ですから、まずは試しに使っていただき何度か調整をして患者さんとの適応が良いと判断した時点で購入していただきます。そして、適正に補聴器を使えるような指導・フォローアップをしていきます。



榎本 友美子医師



手術

鼻副鼻腔手術全般、頭頸部良性腫瘍手術、アデノイド切除、口蓋扁桃摘出術、声帯ポリープ手術などを主に行っております。長期休暇に手術を希望されるお子様も多く、極力ご希望に添えるよう手術枠を調整するなど努力しております。

その他

当院での対応が困難な悪性疾患などについては、当院での検査診断ののち、適宜専門機関へご紹介させていただいておりますのでご相談ください。

身障者福祉法第15条第1項に基づく指定医

小谷、坂部両副部長が指定医の認定を受けていますので、「音声・言語機能障害」「そしゃく機能障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」についての診断書作成も随時受け付けています。



耳鼻咽喉科スタッフ一同 よろしくお願ひします

地域連携医療機関探訪

たかはし耳鼻咽喉科

大田区萩中2-7-10 アストレーラ1F ☎03-5736-4187



高橋宗夫院長

京浜急行空港線糀谷駅南口から歩いて5分。萩中通り商店街の一角に「たかはし耳鼻咽喉科」は開業されている。今回は、たかはし耳鼻咽喉科をお訪ねしてお話を伺った。

— ご出身は

北海道生まれです。小学生の時に東京に移ってきました。現在は、大田区の南千束に住んでいます。糀谷までは自動車通勤です。

— 医師を志したきっかけ

高校1年のとき部活の柔道で、捻挫をしてしまいました。これで練習を休めると内心喜んだのですが、顧問の先生が鍼灸の資格を持っていて、治療してもらったら、歩いても痛くない。

これはすごいことだなと。東洋医学だけではなく医学全般すごいなと、人助けだなと思ったのがきっかけです。

— 耳鼻咽喉科を選んだ理由

積極的に耳鼻咽喉科ということじゃなかったのですが、外科と内科の中間的なものはないかと考えて耳鼻咽喉科を選んだのも理由の一つです。

耳鼻科は幅広い診療科だと思います。風邪から、耳鼻咽喉、精神科にも関係することもありますし。

— 開業されたのはいつごろですか。

1999年9月に開業しました。丸10年経ちまして11年目になります。

— 糀谷に開業した経緯は

たまたま知人が院長になった病院が雑色にありまして、人手が足りないので土曜日の診察を手伝ってほしいと頼

まれました。夜勤もやってほしいと。週1回診察に来ていました。

また、父が蒲田に本社のある会社の役員をやっていたので、このあたりにはなじみもありました。それまでは、お堅い住宅地で診察をしていましたが、こちらの皆さんと接してみると気安い感じで、心地よかったですね。この土地が気に入ったことが開業の大きな理由です。

— 診療するにあたってどのような点を大切にされていますか。

私自身経験もあるのですが、花粉症に20代半ばになりまして、そのとき診療していただいた先生が無愛想な先生で…通院を続けましたが、何でこんな無愛想なんだろうと思いました。こんな医師にはなってはいけないなと。自分が、開業したときはどのような医師になればよいか…やっぱり笑顔で患者さんに接するべきだと思いました。初めて、私のところに来る患者さんは、どんな先生なんだろうと思って来られるわけですね。冷たく「肝臓悪いのにお酒飲み続けていたら死んじゃうよ」というのと「家族が心配するし、健康に注意して長生きするか、好きなものを飲んで短く太く生きるか」というのは違うわけです。

患者さんを怒ったり脅かしたりする必要はありません。わかりやすく丁寧にということが第一ですね。

— 信頼できる病院とは

東京労災病院に耳鼻咽喉科のことをお願いするときには、ターゲットを絞るといって、あやふやな紹介の仕方はしないように心がけています。それに対して労災の先生方はいつも的確に答えを戻してくれます。ありがたいです。返事もきちっといただいて大変ありがたいですし、このようなことが一番の信頼関係の基盤ではないかと思っています。

また、耳鼻咽喉科の範疇とは違う患者さんもお見えになります。例えば喉がおかしいということから、聞くと朝、胸やけがすると。それでは逆流性食道炎などを疑う場合があります。そういったときは消化器内科の先生に紹介して、丁寧に診ていただけて、しっかり返事を送っていただけるシステムが整っている病院と連携をとりたいですね。その中の一つが東京労災病院です。

高橋院長の趣味は刀剣の鑑定と収集。南北朝時代の刀剣も所持されているとのことでした。

高橋先生、お忙しい中、ありがとうございました。

東京労災病院地域医療連携室